

# ウィリアム・バークレー著書目録

(William Barclay 1907–1978)

大 隅 啓 三

ウィリアム・バークレーの著書は日本でも多数が翻訳出版され、キリスト教界に大いに歓迎されているにもかかわらず、正当な評価を受けているとは思われない。これが拙稿執筆の動機である。更に、拙稿は「ウィリアム・バークレーの神学と業績」を明らかにすることを最終的に意図しているが、通常はその付録となる「著書目録」をまずここに取り上げてみた。

しかし、読者の便宜のために、彼の生い立ちと経歴を略述することから始めたい。(その詳細については稿を改めてふれる予定である。) ウィリアム・バークレーはスコットランドの北東部にある小さな町ウィックで1907年に生まれた。この町はハイランドでも北端に属すると言ってよい。その両親はハイランドの西部に位置する美しい町フォート・ウィリアムの出身で、父は現代流に言えば銀行員であった。バークレーが生まれた時には、その町の銀行支店支配人をしていた。また、彼は熱心な信徒であったばかりでなく、信徒説教者でもあった。

ウィリアムが5歳の時に、その両親はラナーク・シャアのマザーウェル町に移住した。父がこの支店の支配人に就任したからである。彼はこの町で人生の形成期を過ごし、ここをホーム・タウンと呼び、愛し続けた。この町は鉄工業地帯であったので、ハイランドよりは牧歌性は少なかったかもしれないが、活気に満ち溢れていた。彼はここのダルジール高等学校を卒業し、グラスゴー大学人文学部に入学し、卓抜な成績を残して文学修士号を取得した。その専攻は古典学であった。その後、トリニティ・カレッジ(グラスゴー大学の神学部であると同時にスコットランド教会の神学校であった)に入学し、新約聖書学を専攻して、ここでも顕著な成績をあげて卒業し、神学士号を得た。

トリニティ・カレッジ卒業後、ドイツ、マールブルク大学に一年遊学し、1933年にグラスゴー郊外の鉄工業町であるレンフリユウのトリニティ教会牧師に就任、13年間、牧会伝道した。1946年にグラスゴー大学の「新約聖書言語と文学」の講師に就任、1963年に「神学と聖書批評学」の教授となり、1974年に引退した。1975年にストラスクライド大学の客員教授となり、神学を理工系の学生に講義し、1976年に退職した。その間にエディンバラ大学から神学博士号(D.D.1956)を授与され、女王から「英帝国司令」(CBE.1969)の称号を与えられた。

その著作はトリニティ教会の牧師時代から始められ、逝去の直前にまで及んだ。その代表作『聖書註解シリーズ』が完結する以前に、すでに一般から高い評価を得ていた。だが、学術論文を殆

## 大 隅 啓 三

ど執筆しなかったのが一因で、学会からはながい間無視された。ウィリアム・バークレーが一般のスコットランド人に決定的な影響を与えたのは、ラジオとテレビの放送によってであった。また、各種の記念講座の講師に指名され、連続講義したが、その特徴は一貫して一般人を対象としたことであった。放送、記念講座、公開大学による影響は甚大であり、多数の人々の人生を転換させた。その一例をあげれば、オーストラリア政府の海軍長官がバークレーのテレビを視聴して、防衛問題、特に核兵器問題を彼と討論しはじめ、遂に自説を撤回し、政治家であることも辞めてしまったことがある。

その著書の多くが中国語、韓国語、日本語、ヒンドゥ語、アラビヤ語などに翻訳され、部分的にはアフリカの諸言語に翻訳、出版されている。もちろん、ロシア語を含むヨーロッパ諸言語にも翻訳され、その領域でも多大の成果をあげている。

さて、ウィリアム・バークレーは自分の著書が何冊出版されたのか自分でもはっきり数えられたことはなかった。現在でも、その正確な数字をあげることは殆ど不可能に近い。彼の逝去後に三種類の伝記が出版されているが、その著者たちでさえ、概数をあげるに留まっている。その原因は彼がたくさんの本を書いたというだけではない。彼の著書はいろいろな体裁で出版されたからでもある。雑誌に連載されたものを、編集者たちがいろいろな体裁で単行本にしたので、輻輳しているものもあるし、その一部が取り上げられて出版されたものもある。あるいは、二冊の本が合本されたものもある。

彼の著書を数える場合にそういう困難はあるが、その数はほぼ80冊ぐらいと思われる。これらの著書を分類して、多少の解説を付けたものを次に列挙する。また、日本の読者の便宜を考慮して、邦訳書名と出版社名もあげた。順序は、原書名、出版年、出版社名、米国版書名、米国出版社名、邦訳書名、邦訳出版社名である。カナダ版もあるが、それは省略した。また、諸外国語訳も省略せざるを得なかった。米国版と書名が同じ場合はそれを省略した。

## (1) 『聖書註解シリーズ』

“The Daily Study Bible” 1953~1959. 1975<sup>2</sup> ~1976<sup>2</sup>. The Saint Andrew Press. Westminster Press. 『聖書註解シリーズ』ヨルダン社。

新約聖書全巻を講解したものであり、17巻からなっている。邦訳も10刷以上のものが相当数あるが、英語版は1984年の時点ですでに三百万冊以上売れている。

新約聖書の各巻について、初めに一般的な序論があり、その文書の持つ問題点を取り上げて解説し、その起源と状況について、歴史的な説明と神学的な説明を加えている。この部分がかかなり重要である。その後で講解に移る。講解部分は家庭礼拝や個人礼拝用に、まずテキストを小さく区分している。そして、その聖句をギリシア語原典から私訳したものが掲げられる。ウィリアム・バークレーはこの私訳に相当の力を注いだが、邦訳にはこの部分が省略されている。

その私訳を土台にして、講解するが、本文の背景やギリシア語元来の意味などの説明があり、やさしい言葉でメッセージを伝えている。さらに、特筆すべきことは、希有なかたちで、彼は適

切な例話や挿話を入れ、そのメッセージを極めて説得的にしていることである。ただし、講解という性質上、執筆に長短がある。註解書のようにテキストに対する均等の釈義はない。

そして、ひと区切りの講解が毎日の家庭礼拝や個人礼拝の時間内で適切に完了できるようにされている。このシリーズはバークレーの事実上の代表作と言える。彼の神学を研究するためには基本的なものである。全17巻で5,110ページの大作である。

## (2) イエス伝及びイエスの教えと業績

**“A New People’s Life of Jesus”** 1965. SCM Press. “The Life of Jesus for everyman” Harper and Row. 『戦うキリスト』新教出版社。

バークレーがテレビで放映した6つの講演を本にしたものである。イエスの少年期の歴史的背景から初めてその生涯を簡潔にまとめてあり、イエス伝の入門書として優れている。また、イエス伝を十字架と復活で終わらせるのではなく、教会にまで触れている。イエスの生命が教会にまで及んでいるのを示唆するのはバークレーの特徴である。イエスの全体像をとらえるのに都合がよく、初心者におすすめできる。

**“The Mind of Jesus”** 1960. SCM Press. 『イエスの生涯・I』新教出版社。

上記書より更に詳しいイエス伝を望む人は、これを読むとよい。イエスの伝道の初期を取り扱って、巧みにバークレーのイエス像を浮かび上がらせている。

**“Crucified and Crowned”** 1961. SCM Press. 『イエスの生涯・II』新教出版社。

英書名通り、主の受難と復活の出来事をイエスの究極的な勝利として叙述し、その後で、初代キリスト教会を扱っている。文字通り（I）の続編である。

**“And He Had Compassion”** 1975. The Saint Andrew Press. Westminster Press.

イエスの奇跡を取り上げ、巧みな解説をしているだけでなく、今日でもイエスが私たちの生活に入り込み、素晴らしい働きをなさることを強調している。

**“And Jesus Said”** 1952. The Saint Andrew Press. Westminster Press.

本書では、福音書に出てくるイエスの譬話の大部分が取り上げられ、講解されている。バークレーは、その宗教的・歴史的・地理的な背景を丁寧に説明することによって、それぞれの物語に活力を与えている。特に、そのメッセージが明らかにされ、現代人に説得的に語り掛けている。

**“The Plain Man Looks at the Beatitudes”** 1963. Collins.

文字通り、山上の説教の中の九福の教えで、建徳的な講解が展開されている。

**“A Life of Christ”** 1977. Darton, Longham & Todd. 『キリストの生涯』新教出版社。

劇画のイエス伝で、バークレーも教授用ガウンを着て登場し、問題提起したり、背景を説明したりして、教室の雰囲気が出ています。もちろん、劇画全体の説明文はバークレーのものである。

**“Jesus of Nazares”** 1977. Collins.

テレビ映画のイエス伝からスタイル写真を取り、それにバークレーが説明文をつけたものである。バークレーが引退後に出版したものである。

## 大 隅 啓 三

### (3) 使徒たちとパウロ

“**God’s Young Church**” 1970. The Saint Andrew Press. 『戦う使徒たち』新教出版社。

三部に分かれ、第1章は使徒行伝に準拠して初代教会の諸特徴を述べ、第2章はあるべきキリスト者の姿を説明し、第3章は脇役になって働いた弟子たちの意味を巧みに描いている。元来は青少年向けに書かれたものである。

“**The Master’s Men**” 1959. SCM Press. 『イエスの使徒たち』新教出版社。

十二使徒たちについて解説した本である。使徒たちの性格や働きを知るのに手頃なものである。これも元来は青少年向けのものであった。

“**Ambssader for Christ**” 1974.<sup>2</sup> The Saint Andrew Press. Judosn Press.

使徒パウロの姿とその伝道旅行でおこった事件などを絵画的に描き、楽しめてくれる書物である。彼の最初期の本の改訂版で、パウロの教えにもふれている。

“**The Mind of St. Paul**” 1958. Collins. 『パウロの思想』日本基督教団出版局。

パウロ神学を網羅的に叙述したものではないが、その中心思想については十分に説かれている。バークレーの古代社会の知識を背景に、パウロの神学がいきいきと描かれている。その時代とパウロの信仰を知るのには最適のものである。

### (4) 新約聖書研究

“**Jesus Christ for Today**” 1974. Collins. Tidings. 『イエスを現代に』日本基督教団出版局。

ルカ福音書を取り扱ったもので、小さなルカ神学書と言える。ルカの傾向を手短に把握するのによい。教会の諸グループのテキストに使用されている。

“**Turning to God**” 1963. The Saint Andrew Press. 『神への転換』ヨルダン社。

ここでは使徒行伝に出てくる「回心」に関する用語を取り上げ、特にギリシア語の言語学的な背景を集中的に考察している。そして、回心の意味をある程度まで深く掘り下げて研究し、その成果が提供されている。また、回心の現代的な意味にも触れている。

“**Flesh and Spirit**” 1962. The Saint Andrew Press. Westminster Press.

ガラテヤ人への手紙5章19～23節を取り上げて、ここで用いられているギリシア語を丁寧に吟味している。ギリシア語研究の方法論もある程度理解できて、興味深い。単語を集中的に調べあげて、釈義が行われている。バークレーの倫理観もよく分かる。

“**The All-Sufficient Christ**” 1962. The Saint Andrew Press. Westminster Press.

コロサイ人への手紙の研究である。小さな本であるが、かなり本格的な研究書と言える。この手紙は釈義が困難であるが、当時の思想的背景を説明しながら、そのメッセージを取り出し、訴えている。

“**Great Thems of the New Testament**” 1979. T & T Clark.

ピリピ人への手紙2章1～12、ヨハネ福音書1章1～14、ローマ人への手紙5章12～21、使徒行伝2章14～40、黙示録13章、ヨハネ福音書24章の釈義である。バークレーを単に通俗的な解説

者と思っ込んでいる人は本書によって、彼の積義が他の学者にひけをとらない本格的なものであるのに目が開かれるであろう。また、彼の神学の一端を知るのに都合がよい。

**“Letters to Seven Churches”** 1962<sup>2</sup>. Westminster Press.

黙示録の該当箇所の積義であり、その背景などが丁寧に説明され、7つの教会の特徴がよく分かる。特に、スミルナ教会への手紙では皇帝礼拝の成立過程が明らかにされ、興味深い。バークレーの傑作の1つと言える。

**“The Plain Man Looks at the Lord’s Prayer”** 1963. Collins.

主の祈りのやさしい解説書であり、信仰の養いのためによい。

**“The Promise of the Spirit”** 1960. Westminster Press.

バークレーの聖霊論と言えるが、聖書に密着して聖霊の教理を説いたものである。小さな本であり、特に優れたものであるとは言えない。

#### (5) 旧約聖書関係

『新しい人生の創造』新教出版社。

**“The Old Law and The New Law”** 1972. The Saint Andrew Press. Westminster Press. ↗

青少年のために十戒と山上の説教を講解したものである。特に、バークレーの特徴である倫理的な意味について語られている。

**“The King and the Kingdom”** 1969. The Saint Andrew Press. Westminster Press.

旧約聖書に現れてくる神の王国のビジョンを主題にして、バークレーとしてはかなり詳細な説明をしている。その後で、このビジョンがイエスの王権において完全に成就した筋道を描いている。旧約聖書を貫流するメッセージを知るのによい。

**“The Lord is my Shepherd”** 1979. Collins. Westminster Press.

バークレーの死後、ジェームズ・マーチンが未完成の資料を整理して纏めたものである。5つの詩篇を講解したものである。ただし原書名の詩23篇は含まれていない。引退後、彼は『旧約聖書註解シリーズ』を書こうとしたが、果たせなかった。本書はその遺稿である。

**“Seven Fresh Wineskins”** 1985. Labarum Publications LTD. 『神の約束に生きる』ヨルダン社。

バークレーの初期の著述を編集したもので、創世記、ヨシュア記、エズラ・ネヘミヤ記、詩篇、箴言、予言者が取り扱われている。聖句に短い解説が付けられ、1日1ページで読めるように工夫されている。また、全体の流れがよくつかめるように配慮されている。たとえば、ヨセフ物語などは少しずつ読みながら、しかも、ヨセフの成長と神の摂理が読み取れるようになっている。

#### (6) 教理と倫理

**“The Plain Man Looks at the Apostle Creed”** 1967. Collins. 『使徒信条新解』日本基督教団出版局。

バークレーの本としては大冊である。使徒信条の研究史を含めた形成期のいろいろな問題も扱

大 隅 啓 三

上へのせ、その性格を明らかにする。また、信条そのものの解説も適切におこなわれている。

**“Jesus as they saw Him”** 1962. SCM Press. 『信仰のキリスト・I』、『信仰のキリスト・II』新教出版社。

邦訳では二冊に分冊されているが、元来は一冊のものであった。新約聖書の時代の人々がイエスにつけた名称の研究である。バークレーのキリスト論と言ってよいであろう。類書をあげれば、O. クルマンのキリスト論に似た構造である。

**“Arguing about Christianity”** 1980. The Saint Andrew Press.

ウィリアム・バークレーとイアン・リードとがキリスト教を主題にして自由な討論をしたのをテープにとって、起稿して本にしたものである。キリスト教に関する7つの主題が取り扱われている。

**“The Lord’s Supper”** 1969. SCM Press. Westminster Press.

単なる「主の晩餐」の講解ではない。 sacramentの用語の研究から始めて礼典の意味と歴史研究に至り、聖餐を神学的に取り扱ったものである。英国教会を含めた改革派教会の聖餐観が述べられている。また、今日的な意味もあげている。

**“Ethics in a Permissive Society”** 1972. Collins. 『現代キリスト教倫理』ヨルダン社。

ベアード講座の講義を土台にして、出版したものである。旧約聖書と新約聖書の倫理をまず考察し、当時台頭してきた状況倫理に言及している。その後、職業、娯楽、金銭、共同体、性の問題に取り組んでいる。キリスト教倫理の歴史的な研究からの引用とさまざまな挿話があり、面白く読める倫理書である。

**“The Plain Man’s Guide to Ethics”** 1973. Collins. 『十戒—現代倫理入門』新教出版社。

十戒の研究書である。単に講解だけでなく、現代の問題に積極的に取り組んで、かなり広範な領域を扱い、ある意味では詳細を極めている。

(7) 聖書緒論と聖書結集史

**“The MEN, the Meaning, the Message of the Books”** 1976. The Saint Andrew Press. Westminster Press. 『バークレーの新約聖書案内』ヨルダン社。

新約聖書各巻を書いた著者と各巻の意味及びメッセージが簡潔に記されている。バークレーが引退後に、スコットランド教会の雑誌『生命と仕事』に記載したものを纏めて本にしたものである。

**“Many Witness, One Lord”** 1963. SCM Press. 『新約聖書の多様性』聖文舎。

ひとりの主を多様な使徒たちと弟子たちが証していることを明らかにする。そして、主に至るのにさまざまな道があることを教える。つまり、神学はモノトーンではないことを訴えている。ある意味では新約聖書神学と言える。

**“The First Three Gospels”** 1966. SCM Press. “Introduction to the First Three Gospels” Westminster Press.

文字通り共観福音書の緒論である。バークレーの聖書批評学は様式史までであったといわれているが、非神話化をも含んでいる。ここではかなり詳細に福音書の資料研究がなされている。学術的な研究書である。

**“The Gospels and Acts”** 1976. SCM Press. Westminster Press.

上記の著書を改訂、増補して、ヨハネ福音書と使徒行伝に関する記述を加え、2巻ものとして出版。

**“The Making of the Bible”** 1961. Lutterworth Press. Abingdon Press.

旧約聖書の区分から始めて、各文書の起源にふれ、どのようにして聖書が結集されたかを解説する。また、新約聖書の時代に旧約がどのように扱われたかをのべ、イエスの言葉から福音書の成立に及び、やがて聖書の結集に至った有様を叙述している。

その間に、教会の決断があったことを告げ、聖書の権威の根源にふれている。

**“Introducing the Bible”** 1972. International Bible Reading Association. Denholm House Press.

本書は聖書緒論ではない。聖書を総合的に紹介した優れた著書である。旧・新約聖書の結集史とその構造を的確に述べている。また、外典の意味と限界にふれているのは類書にない例であろう。この部分がよく書けている。第五章は「聖書の勉強法」となっているが、いわゆるハウトウものではない。本格的に聖書を読む際の手引が明示されている。バークレーの解釈学が展開されているといえる。

**“By What Authority”** 1973. Westminster Press.

現代は分派と異端が活躍する時代である。それは権威の所在が不分明になっているからでもある。怪しげな勢力と対抗するためには権威の根源を知らなければならない。本書はイエスと旧約聖書と教会の権威を鮮明にし、道標を立てている。

## (8) 祈 禱 集

**“Prayers for Young People”** 1962. Collins. 『若人の祈り』 聖文社。 **“More Prayers for Young People”** 1977. Collins. **“The Plain Man’s Book of Prayers”** 1959. Collins. **“More Prayers for the Plain Man”** 1962. **“Prayers for Help and Healing”** 1968.

上記書は Collins 出版社からでたいわゆる “The Plain Man” シリーズの祈禱書である。このシリーズは学歴のないただの人でも違和感がない単純な言葉で、その主題を率直に説明し、しかも深い意味を伝えている。従って、神学的な専門語も宗教的なと考えられる難解な言葉も使っていない。上記書は祈禱集であるが、それぞれの祈りに適切な聖句がつけられ、典型的なバークレーの用語で、つまり、単純で、直接的で、印象的な言葉で表現されている。コリンズ社の現場責任者は The Plain Man’s Book of Prayers を始めて印刷する時に、その売れ行きを心配し、部数を減らそうとした。しかし、出版されるやいなや第一刷は直ぐに売り切れ、増刷が続いた。祈禱書がこのように売れたことはかつてなかった。

大 隅 啓 三

**“Epilogues and Prayers”** 1963. SCM Press. 『明日への祈り』日本基督教団出版局。

個人やグループの靈性を涵養するための優れた祈禱書である。敬虔さを養うためにたいへん有益な書物である。

**“The Prayers for Christian Year”** SCM Press.

教会暦に基づいた祈禱集である。初めに伝統的な祈禱があり、その後、バークレーが独自の易しい用語で、その日の祈禱を書いている。教会の礼拝用としても優れている。教会暦に従って、1年分の礼拝の祈禱と特別な日の祈禱が網羅されている。

(9) 評 論 と 挿 話 集

**“In the Hand of God”** 1966. Collins. Westminster Press.

雑誌などに連載された珠玉の挿話などを編集したものである。個人の靈性の養成と瞑想の資料になる。また、優れた例話集とも言える。

**“Seen in the Passing”** 1966. Collins.

美しい挿話がたくさん集められている。もちろん、バークレーが書いたものから編集されたものである。

**“Men and Affairs”** 1977. Mowbrays. Westminster Press.

『エクスポジトリー・タイムズ』に連載された書評を編集したものである。これを見るとバークレーがいかにか人間に興味を抱いていたかがわかる。彼は30年間同誌に寄稿したが、その一部である。巻末に、著書目録がつけられている。

(10) そ の 他

**“New Testament Words”** 1964. SCM Press. 『新約聖書ギリシア語新解』日本基督教団出版局。

新約聖書の重要なギリシア語を相当数取り上げて解説したものである。小さな新約聖書神学辞典の感がある。はじめ、ブリティッシュ・ウイークリーに載った記事を2冊に分けて出版したものを、後に合本した。

**“Communicating the Gospel”** 1968. The Saint Andrew Press.

レアード講座の記念講義を土台にして、初めの3章が書かれている。これに加えて、旧約の予言者までに遡って資料を求め、「神の吉報」の理解とその伝達の問題全体を取り扱っている。

**“The Fishers of Men”** 1966. Epworth Press.

キリスト教の説教と教えにまつわる諸問題と技術を取り扱っている。説教の目的、その対象である人間、また、キリスト教の信仰などにふれる。最後に、短くはあるが、ギリシア語原典の文献批評から説教者が得られることが多いと指摘する。ここにバークレーの本領の片鱗を見ることができる。

**“Marching Orders”** 1973. Hodder and Stoughton. 『明日に向かって・上』ヨルダン社。



“**Marching On**” 1974. Hodder and Stoughton. 『明日に向かって・下』 ヨルダン社。

上掲2書は、青少年のために編集された1日1章の読み物である。分量も内容も青少年用として優れている。特に、家庭礼拝に相応しい記事に満ちている。また、グループなどの使用にも適している。挿話などに満ち、興味深く読める。また、毎日読む聖書日課も付けられているのは好都合である。

“**Through the year with William Barclay**” 1971. Hodder and Stoughton. 『希望と信頼に生きる』 ヨルダン社。

“**Every Day with William Barclay**” 1973. Hodder and Stoughton. 『喜びの信仰に生きる』 ヨルダン社。

上掲2書は成人用に編集された1日1章の通年用の読み物である。個人の霊性の養成に適している。青少年用のものの基礎になった。残念なことにこれには聖句の個所がついていない。

“**The New Testament in Historical and Contemporary Perspective**” 1965. Basil Blackwell .

これは故 G. H. C. マッグレッガー教授への献呈論文であるが、バークレーは編集者であると同時に “The New Testament and the Papyri” という論文を書いている。古代世俗のパピリを種々検討し、新約聖書の用語と比較するなど優れた論文である。古典学者としての面目がよくでている。

#### (1) 新約聖書私訳

“**The New Testament: A New Translation**” Vol.1. 1968. Vol.2. 1969. Collins. Westminster Press.

バークレーがギリシア語から愛情をこめて英訳したものである。彼はこれに7年の歳月をかけた。元々『聖書註解シリーズ』の私訳があったのだが、それを改定した。彼はこれを magnum opus (代表作) と自称した。2冊からなっている。

#### (2) バークレーの伝記

“**Testament of Faith**” 1975. Mowbray Press. Westminster Press. 『奇跡の人生』 ヨルダン社。

バークレーの自伝である。原書名の『信仰の遺言』の方が内容をよく表している。彼はその妻にこの本だけは読んで欲しいと訴えている。それだけに、心情を吐露したものであろう。その内面的な成長を知るのには欠かせないものである。

“**William Barclay: The Plain Uncommon Man**” edited by R. D. Kernoham. 1980. Collins. Westminster Press.

バークレーと親しかった8人の友人たちと直接には会ったことのないアメリカ人教授のエッセイが集められている。バークレーと言う庭園をそれぞれの人が散歩して、自分の好むところを探

大 隅 啓 三

勝しているようで、楽しい本である。だからこそ、バークレーのいろいろな面に触れることができる。

**“William Barclay: The Authorised Biography.”** by Clivel Rawlins. 1984. Eerdmans.

これは800ページの大作で、著者はここで本格的なバークレー伝を試みている。その結果、すでに本書に対する多くの書評が書かれている。その1つに、「彼は木を見て、森を見ない」というのがある。これは本書が詳細を極めていることをも表している。確かに、バークレーの未発表の原稿を発掘したりして、たいへん興味深いし、微に入り細をうがって書かれているので、便利な手引になる。だが、バークレーを親しく知る人々には小さい過失が目につきすぎるらしい。従って、本書は改訂されるべきだという意見が出てくる。それにもかかわらず、バークレー研究者には必読書と言える。それに、改訂版は近いうちに出そうもない事情があるからである。

**“William Barclay: A Personal Memoir”** by James Martin. 1984. The Saint Andrew Press.

著者はバークレーに最も近くにいた人間のひとりであり、一緒に仕事をした同僚でもある。従って、副題にあるように、個人的な回想に富んでいる。しかも、小さな本であるにもかかわらず、バークレーの諸相を総合的に捉えている。バークレーを知るための必読書である。

(13) 現在絶版になっている著書

**“New Testament Study”** 1937. Scottish Sunday School Union.

本書はバークレーの処女出版である。

**“God’s Plan for Man”** 1950. The Boy’s Brigade.

**“One Lord, One Faith, One Life”** 1952. The Boy’s Brigade.

**“God’s Law, God’s Sovereignty and God’s Man”** 1954. The Boy’s Brigade.

**“God’s Men, God’s Church and God’s Life”** 1953. The Boy’s Brigade.

**“God’s Law, God’s Servants and God’s Men”** 1955. The Boy’s Brigade.

**“Camp Prayers and Services”**? The Boy’s Brigade.

**“Educational Ideals in the Ancient World”** 1959. Collins.

古代ギリシア、ローマ、ユダヤ、キリスト教の教育の実体と理想を説き、比較研究したものである。比較的簡潔に纏められていて、その方面のよいガイダンスになっている。バークレーが教授の資格審査を受けた時に難渋したが、この書物が鍵となってパスした。

**“The Way, the Truth and the Life”** 1960. Collins.

**“The Christian Way”** 1962. Collins.

**“Christian Discipline in Society Today”** 1962. Fellowship of Reconciliation.

**“Epistle to the Hebrews”** BIBLE GUIDE: Vol.20. 1965. Lutterworth Press. Abingdon.

**“The Bible and History”** 1968. Lutterworth.

これはバークレーが編集した本で、彼は序文を書いているにすぎない。

## ウィリアム・バークレー著書目録

(注) 拙稿は上記3冊の伝記に付された「著書目録」を参考にし、最近のものを補った。彼にはパンフレットなどの著述も少なくないが、それらを網羅することはできなかった。放送をカセット・テープに録音したものも市販されているが、それらも取り上げるに至らなかった。尚、BBC放送には相当量のビデオ・テープが保管されている筈である。